



MASHIRO

ましろ訪問看護ステーション

4

april 2025

年4回発行

Mashiro Letter

Policy 「ましろ」の運営ポリシー

ましろでは、東川口を中心としたこの地域に根差し、地域の皆さまの生活に寄り添った訪問看護サービスを提供いたします。

ご利用者のひとりひとりが最期まで「私らしく」生きることができるよう、また、そのご家族や介護・介助をされる方までが安心して日々の生活を送ることができるよう、誠心誠意のサポートをすることが私たちの務めです。

そのためには、私たちが日々の訪問の中でご利用者の病状・心身の状態・生活環境を正しく把握し、私たちと共にご利用者のサポートをしていく、主治医・かかりつけの先生をはじめとした医療関係の皆さまや、ケアマネジャーをはじめとした介護関係の皆さまへの、確かな情報共有をさせていただくことが必要不可欠だと考えております。

連携先となる皆さまから、「ましろなら安心して任せられる」と信頼して頂ける訪問看護ステーションとなれるよう、迅速・丁寧なコミュニケーションを心がけてまいります。

管理者 角田 幸恵（看護師）



Service サービス提供の特徴 3つ

① 全領域の受け入れ

慢性期から終末期、小児（新生児）から老年、がん、難病、精神…等、あらゆる疾患・状態・領域のご利用者を受け入れます。

② 24時間365日体制

看護師による24時間のオンコール緊急対応体制に加えて、土日祝をはじめとした365日での定期訪問もお受けいたします。

③ 看護・リハビリによる生活支援

看護職とリハビリ職が一体となってご利用者の生活をサポートいたします。

Contents

・勉強会レポート！

「皮膚ケア」と「人工呼吸器」の勉強会を開催しました！

・ケース紹介

「糖尿病を抱える70代男性、アルコール依存から脱却し落ち着いた暮らしを取り戻すまで」

基本情報

事業所名
所在地
運営時間
専門職

ましろ訪問看護ステーション 〈訪問看護指定番号 1160290791〉
埼玉県川口市戸塚2-22-33 エスポワール408 ※「東川口」駅 徒歩1分
24時間365日 ※定休日なし
看護師7名、理学療法士3名、作業療法士2名



HP



LINE WORKS



訪問看護申込書



訪問エリア



川口市、さいたま市、越谷市、草加市、蕨市

新規のご相談につきまして、お電話・FAX・Mailにて承っております。お気軽にご連絡ください。

※新規のご相談はいつでもお受けしております。ただし、土日祝と営業時間外については対応が遅くなる可能性がある旨、ご了承ください。
※訪問スケジュールについてもまずはご相談ください。ご利用者希望に合わせた調整や、土日祝の定期訪問も含めた365日での対応をいたします。
※退院カンファレンスにつきましても積極的に参加いたしますので、入院中（退院前）につきましても是非お声がけください。
※グループホーム、デイサービス、放課後デイサービス（医療的ケア児・重症心身障害児の受け入れをされている場合）等と、弊社看護師による医療連携もお受けしております。



MASHIRO
ましろ訪問看護ステーション

050-5482-3534

Fax 048-611-7212

info@mashiro.life

〒333-0811 埼玉県川口市戸塚2-22-33
エスポワール408号室

e-mail



「皮膚ケア」と「人工呼吸器」の勉強会を開催いたしました

勉強会
1

協力・協賛

ご高齢者の皮膚をケアする、保護膜形成剤と皮膚洗浄保湿用剤の使い方について

アルケア株式会社 様



- ① 皮膚に見立てた新聞紙に、保護膜形成剤を塗布したものと塗布していないものにテープを貼付。テープを剥がす際に新聞紙がどのように剥がれるのかを比較。
- ② 手のひらに水性ペンでマークし、泡状の皮膚洗浄・保湿用クリームを1プッシュ塗布して、擦らずに汚れが落ちていく状態を体験。泡状のものとクリーム状のものとの使用用途の違いについても説明を受ける。また、保湿成分の効果で洗浄後の皮膚の状態が良いことなども実感。
- ③ 災害時、断水した際を想定した使用方法についても説明を受ける。



メンバーの声



丁寧に実演を交えながら教えてくださりわかりやすかったです。
(細川/PT)



リハビリとしては、これまであまり気にしていない領域だったので今後注意してみようと思います。(内海/PT)



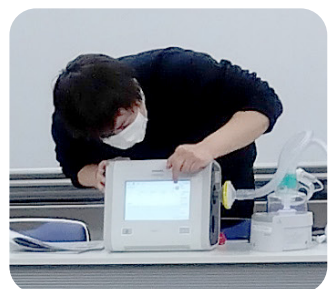
自分自身で体験をすることができたことで、使用量やポイントなども理解が進みました。(小玉/NS)

勉強会
2

協力・協賛

人工呼吸器の取り扱いについて、実際のケーススタディを交えつつ体験・学習

株式会社フィリップス・ジャパン 様



- ① 現在介入をしているご利用者が使用されている人工呼吸器についての看護師メンバーを中心とした勉強会を開催。メーカーのご担当者から実際の人工呼吸器を持参していただき、操作方法、アラーム時の対応、回路交換の方法について説明を受ける。
- ② 実際の設定については医師が行うため、看護側として求められる実測値の確認やアラーム作動時の確認ポイントなど、具体的に一つ一つ操作をしながら学習を進めていく。また、外出時や災害時といったシチュエーションを想定した準備についても理解を深めることができた。
- ③ 過去に実際に現場で起こったケースとして、低温アラームがなかなか止まらないことがあり、外気温の低下によりアラームが反応してしまうことや、センサートラブルの可能性についての質問をしている姿が見られた。



メンバーの声



実機を操作することにより不安が軽減されました。今後、訪問をする際に活かすことができる勉強会になったと思います。(西山/NS)



これまで呼吸器管理を経験する機会が少なかったため、漠然と「呼吸器は難しい…」という先入観を持っていました。今回、詳しい説明を聞くことができたことはとても良い経験となりました。(山田/NS)

事例紹介

糖尿病を抱える70代男性、アルコール依存から脱却し落ち着いた暮らしを取り戻すまで

Case
study

A氏(仮名) / 70代前半

疾患名: 2型糖尿病、アルコール症、糖尿病性末梢神経障害 / 要介護認定: 要介護1



20年前に糖尿病指摘されたが治療中断し、3年後に糖尿病ケトアシドーシスで入院。この時より糖尿病性神経障害は高度な状態でした。7年前より歩行時のふらつきが高度になり、精査を受けたが脳神経的には異常なく、禁酒しなければ改善しないと医師より説明され断酒補助薬の内服が開始となりました。栄養バランスが悪いため低カリウム血症を認めることが多く、神経障害高度のため足潰瘍や褥瘡ができやすい状態でした。また、HbA1c7.4%と上昇し、インスリン投与は継続しており、食事せず出かけた際に低血糖を起こしたりなど、継続的な介入が必要となっています。

アセスメント

① 服薬管理と精神面の影響

精神面の落ち込みや気がかりが服薬に影響しやすく、飲み忘れにつながる可能性がある。そのため、自立性を促しながら支援を行うことが重要。

② 精神的負担への配慮

できないことを指導されることで精神的負担が増し、受け入れ難くなる可能性がある。そのため、支援方法には配慮が必要。

③ 健康状態の改善と維持

介入当初はアルコール中毒による飲酒が続いていたが、定期的な通院や訪問による内服管理により禁酒を継続できている。また、血糖値はインスリン自己注射が可能であり、検査データも悪化なく経過している。

提供したケア / リハビリ

- インスリン実施や低血糖症状がないか確認
- 皮膚の観察、フットケア
- 服薬カレンダーと飲み忘れ有無の確認 ※お薬セットは薬局にて対応
- 食事内容の確認

アウトカム

当初は週1回の訪問だったが、状態が安定してきたことを受け、自主性を促すため月2回の訪問への減回に成功。
断酒補助薬の内服はできており、禁酒の継続に成功している。インスリンは自己管理ができており、検査データの悪化も見られていない。

ご利用者からのコメント

ご本人

「いつも話を聞いてもらっています。本当は毎週でも来てもらいたいんだけどね(苦笑)」



ましろ担当者からのコメント

今年に入り奥様や大事な猫が亡くなり、寂しさで気を落とされていましたが、最近は少しずつ気持ちを元に戻されています。入浴や足のケアが難しい期間が続いたので皮膚状態にも注視しつつ、できるだけお話を傾聴しお気持ちに寄り添っていききたいと思います。



名前 山田(ヤマダ)
資格 看護師
認知症サポーター

臨床経験

県内病院の消化器内科に勤務後、クリニック、認知症専門デイケア、デイサービスと様々な職場で経験を積みました。現在は、ご利用者やご家族とお話をするを楽しみながら訪問看護師をしています。